



外観品質向上
登熟期の栄養不足の回避

両立

良食味の重視
穂肥の過度の減量

良食味米生産のためには、穂肥の適正な施用が重要です。多施用や実肥は、タンパク含量を増加させ食味低下を起すことが知られています。

しかしながら、近年、登熟期間中の気温が高く経過することにより、稲の栄養が不足し、登熟が阻害されることで白未熟粒の発生が多くなります。高温気象条件下では、稲の栄養を維持し、白未熟粒による外観品質の低下を防ぐため、葉色が薄い場合は、追肥を施用します。

・追肥の施用時期は出穂期から穂ぞろい期です

・追肥量の基準は10aあたり窒素成分で1~2kg程度です。

一発施肥体系での穂肥の考え方

一発肥料を使用されていても、出穂前の葉色を確認して穂肥を検討しましょう。特に高温気象条件下では、葉の栄養を維持し白未熟粒による外観品質の低下を防ぐために積極的に穂肥を施用しましょう。

葉色値(カラースケール値)の基準は、コシヒカリ 3.8 日本晴 4.0

カメムシ防除剤の変更について

環境負荷軽減に向けた取り組みの中で、カメムシ防除剤をスタークルからキラップへ変更しています。キラップ粒剤は散布時期が出穂10日前(穂ばらみ期)~出穂期です。粉剤・液剤・ドローン防除は従来のとおり出穂後防除となります。



営農指導活動

pick up 環境負荷軽減に向けた取組

マイクロプラスチックを利用した被覆肥料は、作物の生育に合わせて肥効成分の溶出を制御できることから、人手不足と高齢化が進む日本の農業にとって欠くことができない農業資材です。しかしながら、近年ではプラスチック被覆殻の河川などへの流出が問題とされており、環境に配慮した肥料が強く求められています。

JAレーク伊吹では、営農企画課を中心に、環境負荷軽減に向け、被覆レス肥料の試験を麦作や水稲の栽培検証を行い、将来の普及に向けて活動しています。

※被覆レス：プラスチックを主原料として被覆コーティングをしない環境に配慮した代替肥料



営農企画課
営農担当兼経済渉外
北川 豊

~JAレーク伊吹 農産物安全対策協議会からのお知らせ~

カドミウムの吸収が活発となる出穂前後3週間は、
湛水管理で吸収抑制をしましょう!

湛水管理の状態



土壌がすべて水面につかっている状態

